

## 第2章 ゆりかごの利用状況とその背景

### 1 ゆりかごの利用状況と背景

第2期（平成21年10月1日から平成23年9月30日まで）の2年間の利用状況は以下のとおりである。

#### (1) 預け入れ時の状況

##### ア 預け入れられた子どもの人数および頻度

第2期の2年間に、合計30人の子どもの預け入れがあった。年度ごとの内訳は、平成21年度（6か月）6人、平成22年度（12か月）18人、平成23年度（6か月）6人である。

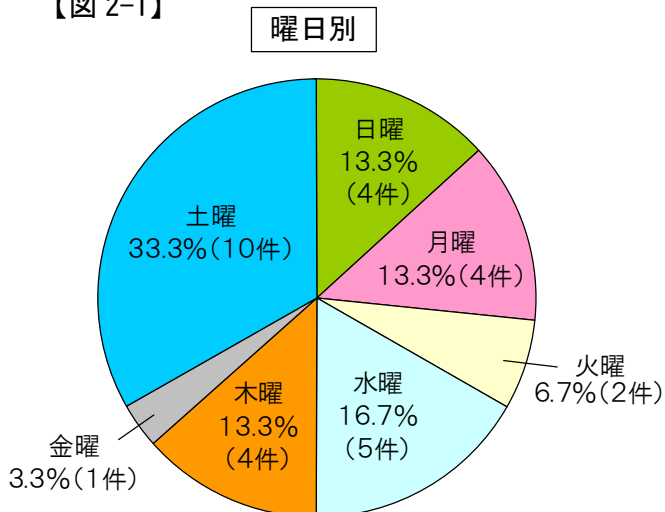
この期間では1か月約1.25人のペースでの預け入れになるが、3か月単位でみた場合、最も多かった期間では8人、最も少なかった期間では2人である。また、1か月単位でみた場合、最も多い月は1か月5人である。さらに、1日に2件の預け入れがあった日があった。

第1期、第2期を通した利用件数では平成20年度が25件と最も多く、それ以外の年度については10件台後半で推移している。

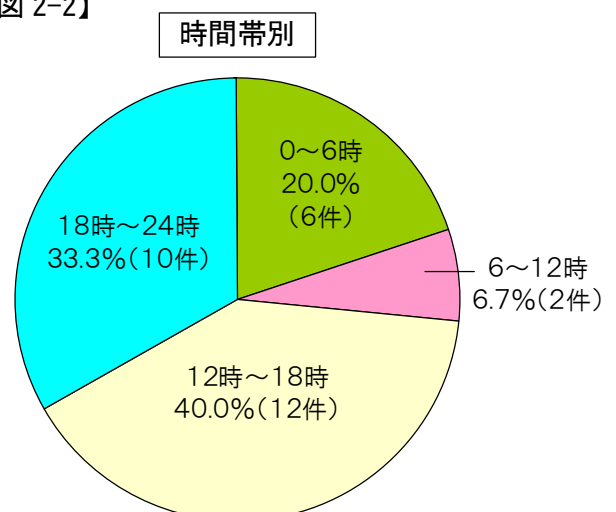
##### イ 子どもが預け入れられた曜日と時間帯

子どもが預け入れられた曜日について、30人のうち3分の1にあたる10件が土曜日に預けられている。また、時間帯では、12時から18時までが12件と全体の約4割（40.0%）を占め、次いで18時から24時の時間帯が約3割（33.3%）となっている。

【図2-1】



【図2-2】



【表 2-1】

(単位:件、%)

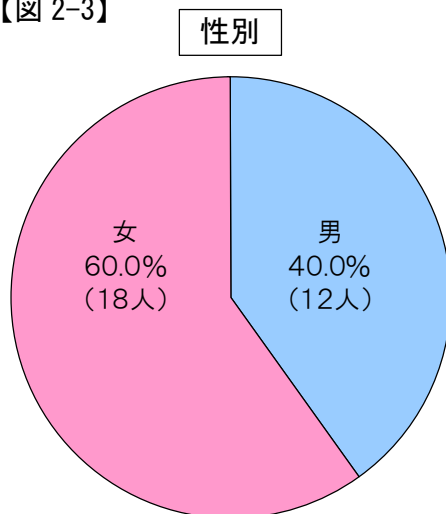
項目	細項目	第1期		第2期		合計		
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合	
利用件数		51	100.0	30	100.0	81	100.0	
発見日時	曜日別	日曜	8	15.7	4	13.3	12	14.8
		月曜	4	7.8	4	13.3	8	9.9
		火曜	7	13.7	2	6.7	9	11.1
		水曜	7	13.7	5	16.7	12	14.8
		木曜	10	19.6	4	13.3	14	17.3
		金曜	8	15.7	1	3.3	9	11.1
		土曜	7	13.7	10	33.3	17	21.0
	時間帯別	0時～6時	8	15.7	6	20.0	14	17.3
		6時～12時	6	11.8	2	6.7	8	9.9
		12時～18時	17	33.3	12	40.0	29	35.8
		18時～24時	20	39.2	10	33.3	30	37.0

### ウ 子どもの性別と年齢

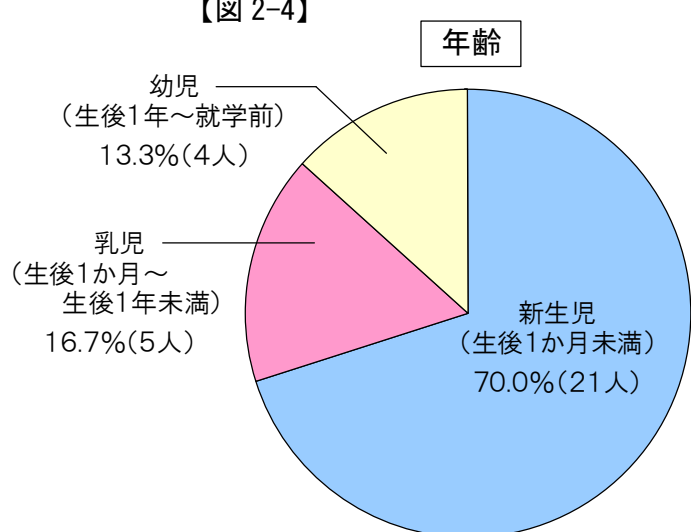
性別は30人中、男児が12人(40.0%)、女児が18人(60.0%)となっている。平成21年度、23年度は男児が多かったが、平成22年度は、女児が15人で8割以上を占めたため、期間全体では女児の割合が高くなった。第1期では男児が多かった(男児28人、女児23人)が、第2期では女児が多く(男児12人、女児18人)、第1期、第2期を通した合計では男女比がほぼ同数になった(男児40人、女児41人)。

年齢区分は、新生児21人(70.0%)、乳児5人(16.7%)、幼児4人(13.3%)であった。第1期では新生児が84.3%を占めていたが、第2期では新生児が70.0%と新生児の占める割合が低下している。一方、第1期では3.9%であった幼児の割合について、第2期では13.3%と大きく伸びている。

【図 2-3】



【図 2-4】



【表 2-2】

		第1期		第2期		合計	
項目	細項目	件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
性別	男	28	54.9	12	40.0	40	49.4
	女	23	45.1	18	60.0	41	50.6
年齢	新生児 (生後1か月未満)	43	84.3	21	70.0	64	79.0
	乳児 (生後1か月～生後1年未満)	6	11.8	5	16.7	11	13.6
	幼児 (生後1年～就学前)	2	3.9	4	13.3	6	7.4

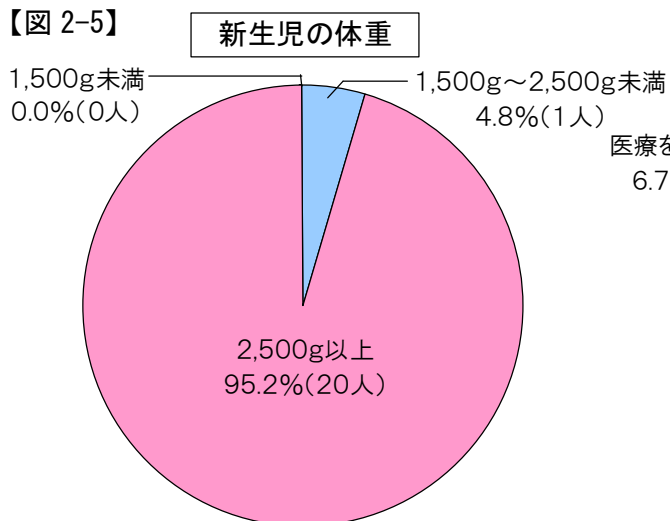
## エ 子どもの健康状態と身体的虐待の有無

子ども（新生児）の体重は、2,500g以上が20人（新生児全体に占める割合は95.2%）、1,500g以上2,500g未満が1人（同4.8%）であった。

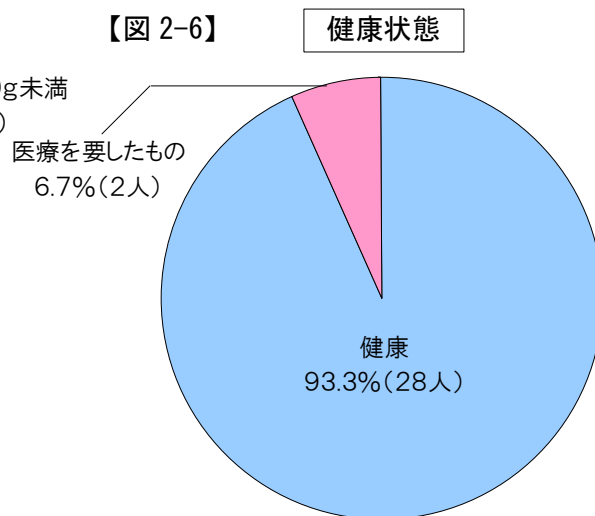
子どもの健康状態については、預け入れの際の医師による健康チェックの結果、異常のなかったものが28人（93.3%）、精密検査など何らかの医療行為を要するものが2人（6.7%）あった。異常ではないが、低体温状態や新生児以外で低体重のものがみられた。また、出産から預け入れまでの期間が1日以内という事例が7件みられた。

身体的虐待については、預け入れられた段階で子どもへの身体的な虐待の痕跡が確認できたケースはなかった。

【図 2-5】



【図 2-6】



【表 2-3】

		第1期		第2期		合計	
項目	細項目	件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
新生児の体重	1,500g未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	1,500g以上2,500g未満	7	16.3	1	4.8	8	12.5
	2,500g以上	36	83.7	20	95.2	56	87.5
健康状態	健康	47	92.2	28	93.3	75	92.6
	医療を要したもの	4	7.8	2	6.7	6	7.4

オ 病院から「両親に宛てた手紙」の持ち帰り

病院から「両親に宛てた手紙」が持ち帰られていた事例が 23 件（76.7%）あった。預け入れた母親などが、手紙を読んでその後連絡を取ってきて、身元の判明につながった事例が複数あった。

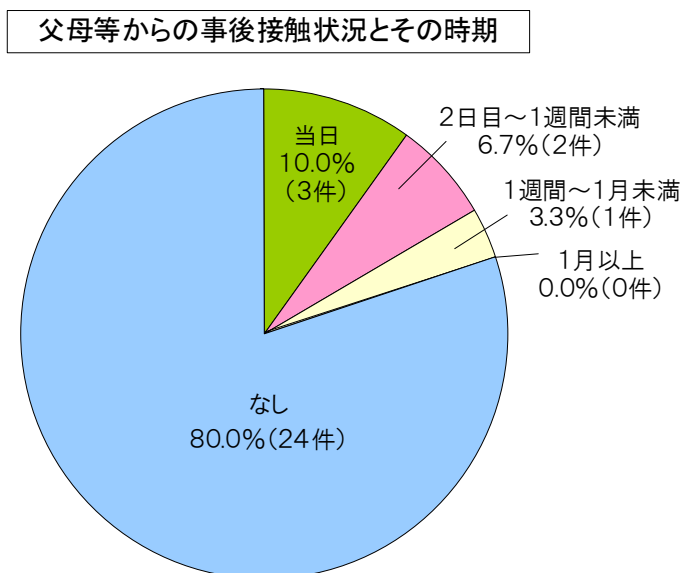
カ 遺留品

預けられた子どもの着衣以外の「物」が残されていた事例は、全 30 件のうち 16 件（53.3%）であった。このうち親からの手紙が 8 件（26.7%）あり、その他には粉ミルク、哺乳瓶、予備の紙おむつ、おしゃぶりなどがあつた。

キ 父母等からの事後接触

預け入れ後、父母等からの事後接触があつたものは 30 件中、6 件（20.0%）であった。接触の時期については、当日 3 件（10.0%）、2 日目から 1 週間未満 2 件（6.7%）、1 週間以上 1 か月未満 1 件（3.3%）となっている。

【図 2-7】



【表 2-4】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計			
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合		
事後接触	接触の有無	父母等からの事後接触の件数		13	25.5	6	20.0	19	23.5
	接触の時期	当日	3	23.1	3	50.0	6	31.6	
		2日目から1週間未満	6	46.2	2	33.3	8	42.1	
		1週間以上～1か月未満	2	15.4	1	16.7	3	15.8	
		1か月以上	2	15.4	0	0.0	2	10.5	

(2) 家族等の状況

ア 親の居住地

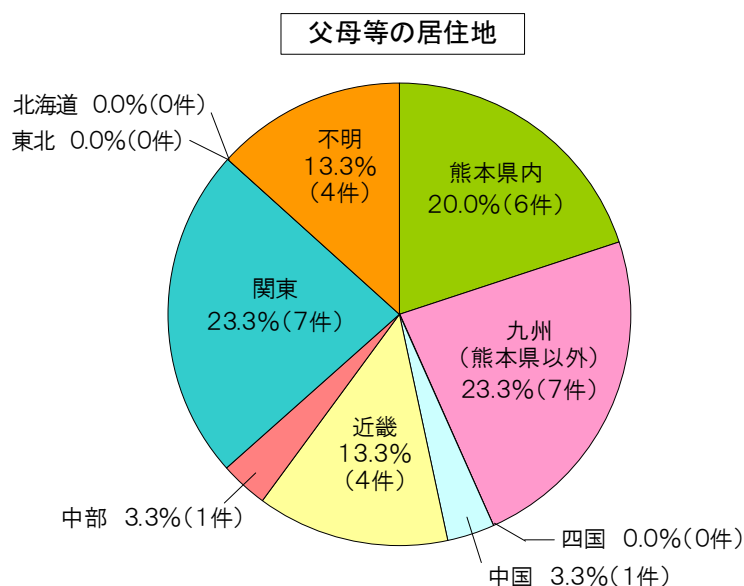
子どもの親の居住地は、30 件のうち 26 件（86.7%）について判明している（不明は 4

件 13.3%である)。その内訳は、関東地方と熊本県以外の九州地方がそれぞれ7件（全30件に対して23.3%、以下、同様）、熊本県内6件（20.0%）、近畿地方4件（13.3%）、中部地方1件（3.3%）となっている。

第1期では判明した事例については熊本県内の事例がなかったが、第2期においては、身元判明の26事例のうち、6件が県内事例であった。

県外の実例については、第1期と同様、遠方からの利用と九州からの利用との二極化の状況が見られ、地域では、熊本県を除いた九州各県からの利用が23.3%と多く、また、関東地方からの利用も23.3%と多い。第1期、第2期を通じた合計では、熊本県を含む九州地方が26件（32.1%）を占め、これに関東地方が18件（22.2%）。近畿、中部地方がそれぞれ9.9%と続いている。

【図 2-8】



【表 2-5】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
父母等の居住地	熊本県内	0	0.0	6	20.0	6	7.4
	九州 (熊本県以外)	13	25.5	7	23.3	20	24.7
	四国	1	2.0	0	0.0	1	1.2
	中国	4	7.8	1	3.3	5	6.2
	近畿	4	7.8	4	13.3	8	9.9
	中部	7	13.7	1	3.3	8	9.9
	関東	11	21.6	7	23.3	18	22.2
	東北	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	北海道	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	(不明)	11	21.6	4	13.3	15	18.5

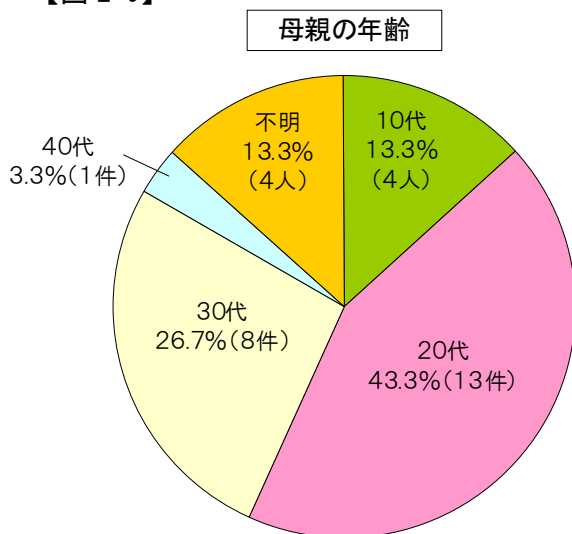
## イ 母親の状況

判明した母親の年齢は、10代4人(13.3%)、20代13人(43.3%)、30代8人(26.7%)、40代1人(3.3%)と、10代から40代まで幅広い年代にわたっている。母親の年齢については、第1期では20代、30代をあわせて60.8%を占めていたが、第2期では20代30代をあわせて70.0%であり比率がやや高くなっている。

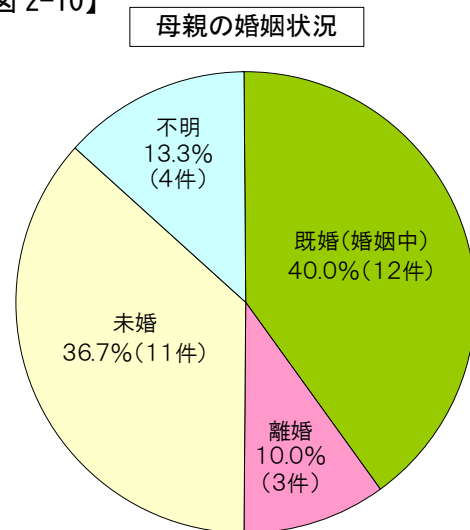
また、母親の婚姻状況は、既婚(婚姻中のもの)事例12件(40.0%)、未婚の事例11件(36.7%)、離婚の事例3件(10.0%)、であった。

未婚の占める割合は、第1期では33.3%であったが第2期では36.7%とやや増加し、既婚事例は第1期19.6%から第2期40.0%と大きく増加している。一方、離婚事例は第1期25.5%から第2期10.0%と減少している。

【図 2-9】



【図 2-10】



【表 2-6】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
母親の年齢	10代	6	11.8	4	13.3	10	12.3
	20代	21	41.2	13	43.3	34	42.0
	30代	10	19.6	8	26.7	18	22.2
	40代	3	5.9	1	3.3	4	4.9
	(不明)	11	21.6	4	13.3	15	18.5
母親の婚姻状況	既婚(婚姻中)	10	19.6	12	40.0	22	27.2
	離婚	13	25.5	3	10.0	16	19.8
	未婚	17	33.3	11	36.7	28	34.6
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5

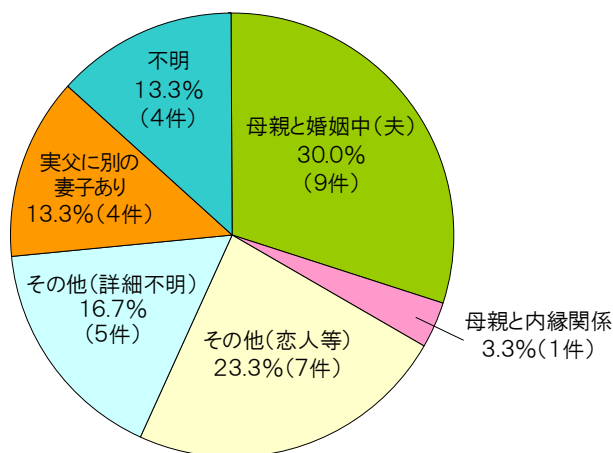
## ウ 父親、きょうだいの状況

父親の状況は、母親と婚姻中の事例は、9件(30.0%)、恋人等の関係にある事例7件(23.3%)、実父に母親でない配偶者がいる事例が4件(13.3%)みられた。

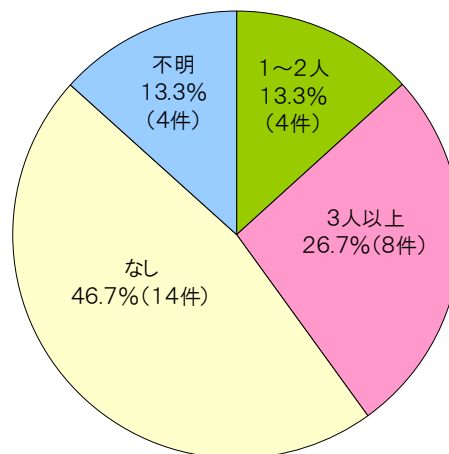
きょうだいの状況が判明した中で、預けられた子どもにきょうだいがいる事例が 12 件 (40.0%) で、このうちきょうだいが 3 人以上といった事例が 8 件 (26.7%) あった。

第 1 期において、きょうだい「あり」が 47.1%であったものが第 2 期では 40.0%と減少しており、きょうだい「なし (第 1 子)」事例が、第 1 期においては 31.4%から第 2 期 46.7%と増加している。なお、きょうだい「あり」のうち、3 人以上のきょうだいの割合については第 1 期 15.7%から第 2 期 26.7%と増加している。

【図 2-11】 子どもの実父



【図 2-12】 きょうだいの有無とその人数



【表 2-7】

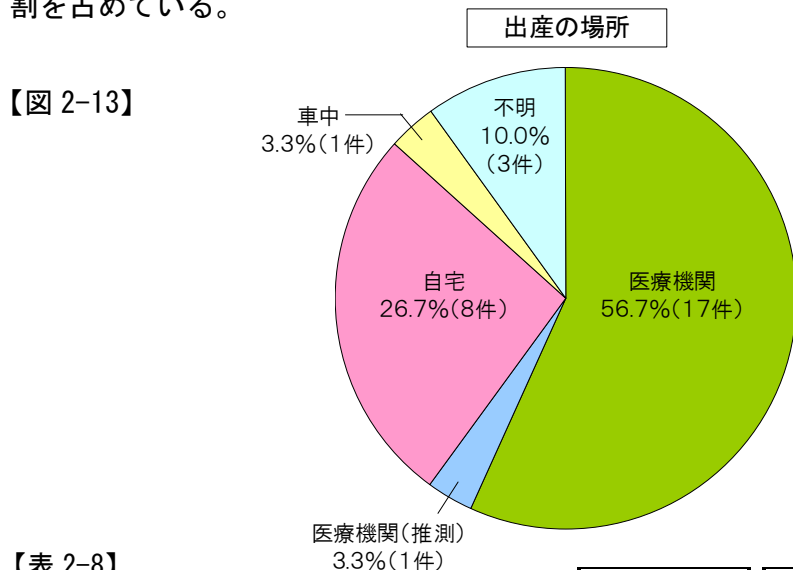
項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
きょうだいの有無	あり	24	47.1	12	40.0	36	44.4
	うち3人以上	8	15.7	8	26.7	16	19.8
	なし	16	31.4	14	46.7	30	37.0
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5
子どもの実父	母親と婚姻中(夫)	7	13.7	9	30.0	16	19.8
	母親と内縁関係	4	7.8	1	3.3	5	6.2
	その他(恋人等)	12	23.5	7	23.3	19	23.5
	その他(詳細不明)	9	17.6	5	16.7	14	17.3
	実父に別の妻子あり	8	15.7	4	13.3	12	14.8
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5

### (3) 預け入れの経緯

#### ア 出産の場所

30 件中、医療機関で出産した事例が 17 件 (56.7%)、医療機関と推測される事例が 1 件 (3.3%)、自宅での出産事例 8 件 (26.7%)、車中での出産事例が 1 件 (3.3%) みられた。妊娠したこと自体を家族など周りの者が気付かなかった事例もあった。(自宅出産とは、医療的ケアをまったく伴わない自宅分娩を指す。)

第1期において推測を含む医療機関での出産事例は28件(54.9%)であったが、第2期においては18件(60.0%)で増加している。一方、車中出産を含む自宅出産は、第1期16件(31.4%)から第2期9件(30.0%)と若干減少しているものの、依然として3割を占めている。

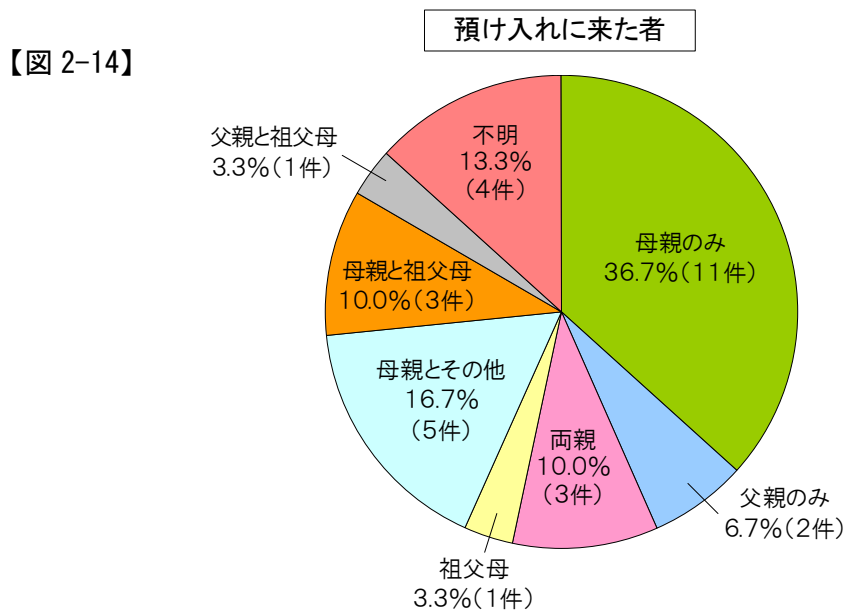


【表 2-8】 (単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
出産の場所	医療機関	24	47.1	17	56.7	41	50.6
	医療機関(推測)	4	7.8	1	3.3	5	6.2
	自宅	15	29.4	8	26.7	23	28.4
	車中	1	2.0	1	3.3	2	2.5
	不明	7	13.7	3	10.0	10	12.3

### イ 子どもを預け入れに来た者

母親が一人で預け入れに来た事例が11件(36.7%)、父親のみで預け入れに来た事例が2件(6.7%)、両親で預け入れに来た事例が3件(10.0%)のほか、祖父母や友人と一緒に預け入れに来た事例などがみられた。





【表 2-9】

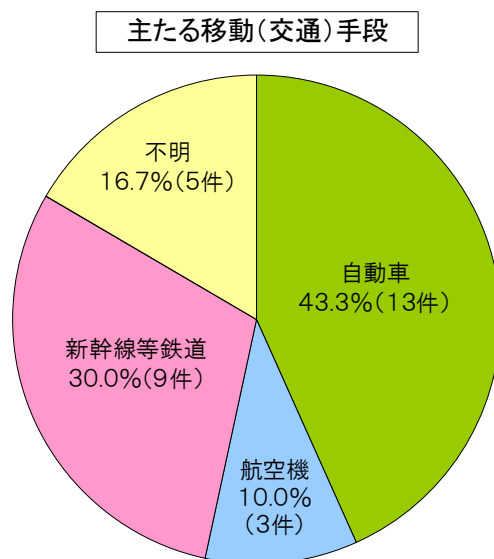
(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
預け入れに来た者 (複数)	母親	38	74.5	22	73.3	60	74.1
	父親	10	19.6	6	20.0	16	19.8
	祖父母	12	23.5	5	16.7	17	21.0
	その他	12	23.5	5	16.7	17	21.0
	(不明)	6	11.8	4	13.3	10	12.3

## ウ 主たる移動(交通)手段

ゆりかごまでの移動手段としては、第1期同様、自動車が13件(43.3%)で最も多く、以下新幹線等鉄道9件(30.0%)、航空機3件(10.0%)の順となっている。公共交通機関が40.0%を占めており、距離が遠い場合、公共交通機関の利用割合が高くなっているが、一方で関東地方から生後半月の乳児を自動車を利用して預け入れに来ている事例も見られた。

【図 2-15】



【表 2-10】

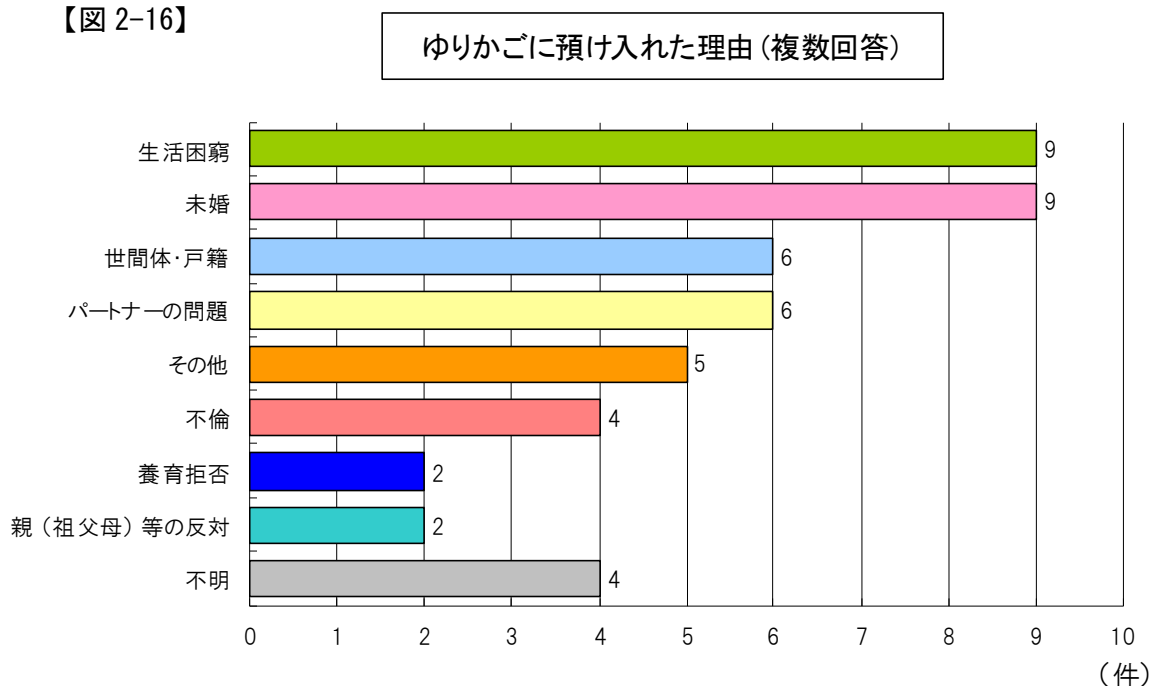
(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
ゆりかごまでの 主たる移動(交通)手段	車(自家用車)	21	41.2	13	43.3	34	42.0
	航空機	7	13.7	3	10.0	10	12.3
	新幹線等鉄道	15	29.4	9	30.0	24	29.6
	その他(上記以外)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	8	15.7	5	16.7	13	16.0

## エ ゆりかごに預け入れた理由

ゆりかごに預け入れた理由については、「県検証報告書」以降、項目の整理を行い、理由を複数回答としている。ゆりかごに預け入れた主な理由で最も多いものは、生活困窮9件（30.0%）、未婚9件（30.0%）で以下、世間体・戸籍（に入れたくない）6件（20.0%）、パートナーの問題6件（20.0%）などとなっている。

【図 2-16】



【表 2-11】

（単位：件、%）

項目	細項目	第1期		項目	細項目	第2期	
		件数	構成割合			件数	構成割合
ゆりかごを利用した理由	生活困窮	7	13.7	ゆりかごを利用した理由 （複数回答）	生活困窮	9	30.0
	親（祖父母）等の反対	1	2.0		親（祖父母）等の反対	2	6.7
	未婚	3	5.9		未婚	9	30.0
	不倫	5	9.8		不倫	4	13.3
	強姦	0	0.0		世間体・戸籍	6	20.0
	世間体	3	5.9		パートナーの問題	6	20.0
	戸籍（に入れたくない）	8	15.7		養育拒否	2	6.7
	パートナーの問題	2	3.9		その他	5	16.7
	母親のうつ・精神障がい	1	2.0		不明	4	13.3
	友人の勧め	1	2.0				
	養育拒否	2	3.9				
	その他	4	7.8				
	不明	14	27.5				

## 2. ゆりかごの利用状況の特徴

ゆりかごの利用状況について第1期第2期通しての特徴は次のとおりである。

### (1) 預け入れ時の状況について

#### ア 預け入れ前の家族等への相談について

自宅出産し、母親が一人で預け入れに来た事例が13件あり、さらに妊娠や出産の事実すら誰にも話さないままに預け入れに至ったと思われる事例は8件であった。そのほか、学生が同居の家族に相談できずに一人で自宅出産していた事例もみられた。一方で、親族や友人に相談した結果、預け入れに来ている事例もみられた。

#### イ 預け入れの理由について

第2期において生活の困窮を理由とする預け入れでは、母親の年代は10代から40代まで広がっており、既婚の割合が半分以上で、さらにパートナーとの間に課題があったとする事例が複数みられた。また、未婚を理由とする預け入れでは、母親の年齢は10代から30代まで広がっており、加えて、生活困窮、不倫や世間体、パートナーの問題など理由はさまざまであった。

#### ウ 幼児の預け入れ事例について

新生児の預け入れを想定した施設にもかかわらず、第2期においても第1期同様に、乳児5件、幼児4件の預け入れ事例があった。

#### エ 障がいのある子どもの事例について

障がいがある子どもが預けられた事例は8件あり、全体の約1割を占めた。障がいの種類も様々で経済的困窮が理由の場合や、子どもの障がいの受容ないし育児等の悩みに耐えかねての預け入れもみられた。

なお、預け入れ以後に病院や児童相談所のスタッフの支援及び家族等の理解と支援が得られて、家庭引取りにつながった事例もあった。

### (2) 家族等の状況

#### ア 親の判明について

第1期について、平成21年9月30日時点で親の身元が判明したのは74.5%であったのに対し、第2期では、平成23年9月30日時点において86.7%と、12.2ポイント増加している。これは、病院において親と接触できたものについてできる限り相談につながり対応がなされていることのほか、病院がゆりかご内に設置した手紙を持ち帰った親から連絡があった場合や、一旦は預け入れたものの親が思い直して連絡を入れてくることにより、多くの事例で親の判明に結びついているものである。

なお、第1期、第2期あわせて親の身元が判明したのは、平成23年9月30日時点において82.7%である。

#### イ 子どもの実父について

子どもの実父が母親と婚姻関係にある（夫である）場合において、実父が出産に反対したため母親が預け入れた事例、また出産後に実父と離婚し経済的な課題もあり預け入れた事例があった。また実父が母親と内縁関係や恋人の関係である場合では、実父が妊娠したこと自体を知らない事例や出産後に実父と連絡が取れなくなった事例がみられ

た。また実父に妻子がある場合では、実父が妊娠を知らない場合や妊娠したことを知っても何ら支援がない事例がみられた。このような父親の無関心、無責任な状況で、母親が様々な課題に直面し、ゆりかごへの預け入れにとなったものと考えられる。

#### ウ その他

特殊な事例として、医療関係者が預け入れに来ていた事例や、父親、母親ともに日本に居住する外国人という事例があった。

### (3) 預け入れの経緯

#### ア 自宅出産事例について

自宅出産の事例は第2期では8件あり、全体では23件で28.4%を占めた。このほかに車中での出産も全体で2件あった。自宅出産は、経済的な理由で病院を受診しなかった事例、家族にも相談ができずに出産を迎えた事例などである。出産後も処置を自分で行い、臍の緒を鋏で切る、ゴムや紐で縛っている事例もあった。臍帯の化膿や多血症状態、低体温などの新生児にとって危険な状態がみられた事例もあった。

ほとんどが、妊婦健康診査未受診で母子健康手帳の交付を受けていなかった。

また、あらかじめインターネットで調べて「ゆりかご」に預けようと考え、自宅出産した事例もみられた。

#### イ 遠距離の移動について

出産後1週間以内に、遠距離（九州外）から預け入れに来た事例は第2期において9件（30.0%）みられた。中には明け方に自宅で出産し、その日のうちに新幹線を使って母親自身が預け入れに来るなど、生後1日以内の遠距離移動による、母子にとって危険な状態が懸念される事例が複数みられた。

ゆりかご利用に係る第1期(平成19年5月10日から平成21年9月30日まで)と第2期(平成21年10月1日から平成23年9月30日まで)の状況は次のとおりである。

(単位:件、%)

【表 2-12】

項目		細項目	第1期		第2期		合計	
			件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
利用件数			51	100.0	30	100.0	81	100.0
発見日時	曜日別	日曜	8	15.7	4	13.3	12	14.8
		月曜	4	7.8	4	13.3	8	9.9
		火曜	7	13.7	2	6.7	9	11.1
		水曜	7	13.7	5	16.7	12	14.8
		木曜	10	19.6	4	13.3	14	17.3
		金曜	8	15.7	1	3.3	9	11.1
		土曜	7	13.7	10	33.3	17	21.0
	時間帯別	0時～6時	8	15.7	6	20.0	14	17.3
		6時～12時	6	11.8	2	6.7	8	9.9
		12時～18時	17	33.3	12	40.0	29	35.8
18時～24時		20	39.2	10	33.3	30	37.0	
性別	男	28	54.9	12	40.0	40	49.4	
	女	23	45.1	18	60.0	41	50.6	
年齢	新生児 (生後1か月未満)	43	84.3	21	70.0	64	79.0	
	乳児 (生後1か月～生後1年未満)	6	11.8	5	16.7	11	13.6	
	幼児 (生後1年～就学前)	2	3.9	4	13.3	6	7.4	
新生児の体重	1,500g未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	1,500g以上2,500g未満	7	16.3	1	4.8	8	12.5	
	2,500g以上	36	83.7	20	95.2	56	87.5	
健康状態	健康	47	92.2	28	93.3	75	92.6	
	医療を要したもの	4	7.8	2	6.7	6	7.4	
身体的虐待の疑い	虐待の疑いのあった件数	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
病院から親への手紙	手紙の持ち帰りの件数	36	70.6	23	76.7	59	72.8	
遺留品	有の件数	置かれていたもの (着衣以外)の件数	37	72.5	16	53.3	53	65.4
	親の手紙	父母等からの 手紙のあった件数	21	41.2	8	26.7	29	35.8
戸籍	熊本市が戸籍を 作成した件数	14	27.5	4	13.3	18	22.2	
事後接触	接触の有無	父母等からの事後 接触の件数	13	25.5	6	20.0	19	23.5
	接触の時期	当日	3	23.1	3	50.0	6	31.6
		2日目から1週間未満	6	46.2	2	33.3	8	42.1
		1週間以上～1か月未満	2	15.4	1	16.7	3	15.8
		1か月以上	2	15.4	0	0.0	2	10.5

【表 2-13】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計	
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合
父母等の 居住地	熊本県内	0	0.0	6	20.0	6	7.4
	九州(熊本県以外)	13	25.5	7	23.3	20	24.7
	四国	1	2.0	0	0.0	1	1.2
	中国	4	7.8	1	3.3	5	6.2
	近畿	4	7.8	4	13.3	8	9.9
	中部	7	13.7	1	3.3	8	9.9
	関東	11	21.6	7	23.3	18	22.2
	東北	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	北海道	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	(不明)	11	21.6	4	13.3	15	18.5
親の引き取り	親が引き取った件数	7	13.7	4	13.3	11	13.6
母親の年齢	10代	6	11.8	4	13.3	10	12.3
	20代	21	41.2	13	43.3	34	42.0
	30代	10	19.6	8	26.7	18	22.2
	40代	3	5.9	1	3.3	4	4.9
	(不明)	11	21.6	4	13.3	15	18.5
母親の婚姻状況	既婚(婚姻中)	10	19.6	12	40.0	22	27.2
	離婚	13	25.5	3	10.0	16	19.8
	未婚	17	33.3	11	36.7	28	34.6
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5
預け入れに来た者 (複数)	母親	38	74.5	22	73.3	60	74.1
	父親	10	19.6	6	20.0	16	19.8
	祖父母	12	23.5	5	16.7	17	21.0
	その他	12	23.5	5	16.7	17	21.0
	(不明)	6	11.8	4	13.3	10	12.3
出産の場所	医療機関	24	47.1	17	56.7	41	50.6
	医療機関(推測)	4	7.8	1	3.3	5	6.2
	自宅	15	29.4	8	26.7	23	28.4
	車中	1	2.0	1	3.3	2	2.5
	不明	7	13.7	3	10.0	10	12.3
ゆりかごまでの 主たる移動(交通)手段	車(自家用車)	21	41.2	13	43.3	34	42.0
	航空機	7	13.7	3	10.0	10	12.3
	新幹線等鉄道	15	29.4	9	30.0	24	29.6
	その他(上記以外)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	8	15.7	5	16.7	13	16.0

【表 2-14】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		第2期		合計		
		件数	構成割合	件数	構成割合	件数	構成割合	
家庭の状況	ひとり親家庭	11	21.6	2	6.7	13	16.0	
	その他	40	78.4	28	93.3	68	84.0	
きょうだいの有無	あり		24	47.1	12	40.0	36	44.4
		(うち3人以上)	8	15.7	8	26.7	16	19.8
	なし	16	31.4	14	46.7	30	37.0	
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5	
子どもの実父	母親と婚姻中(夫)	7	13.7	9	30.0	16	19.8	
	母親と内縁関係	4	7.8	1	3.3	5	6.2	
	その他(恋人等)	12	23.5	7	23.3	19	23.5	
	その他(詳細不明)	9	17.6	5	16.7	14	17.3	
	実父に別の妻子あり	8	15.7	4	13.3	12	14.8	
	不明	11	21.6	4	13.3	15	18.5	

【表 2-15】

(単位:件、%)

項目	細項目	第1期		項目	細項目	第2期	
		件数	構成割合			件数	構成割合
ゆりかごを利用した理由	生活困窮	7	13.7	ゆりかごを利用した理由 (複数回答)	生活困窮	9	30.0
	親(祖父母)等の反対	1	2.0		親(祖父母)等の反対	2	6.7
	未婚	3	5.9		未婚	9	30.0
	不倫	5	9.8		不倫	4	13.3
	強姦	0	0.0		世間体・戸籍	6	20.0
	世間体	3	5.9		パートナーの問題	6	20.0
	戸籍(に入れたくない)	8	15.7		養育拒否	2	6.7
	パートナーの問題	2	3.9		その他	5	16.7
	母親のうつ・精神障がい	1	2.0		不明	4	13.3
	友人の勧め	1	2.0				
	養育拒否	2	3.9				
	その他	4	7.8				
	不明	14	27.5				

## ※「ゆりかごを利用した理由」の項目整理について

「こうのとりのゆりかご検証会議・最終報告」では、ゆりかごを利用した理由について、13項目で公表されている。その後、下記のとおり、項目整理及び計上方法の見直しを行い、整理した。

## ○ 項目の見直し(13項目→9項目)

- ・「世間体」「戸籍(に入れたくない)」⇒「世間体・戸籍」
- ・「強姦」「母親のうつ・精神障がい」「友人の勧め」⇒「その他」

## ○ 計上方法の見直し

- ・主たる理由ひとつの単数回答 ⇒ 当てはまる項目を複数選ぶ複数回答

※第1期の数値は、県検証報告書で報告された数値を、平成22年3月31日現在で時点修正したもの。

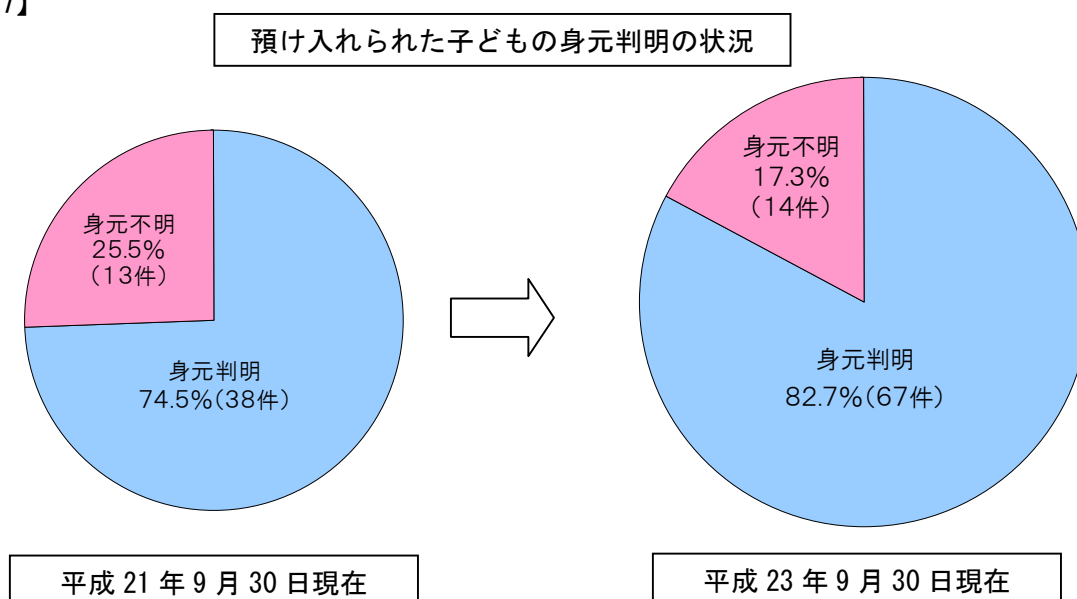
### 3 預け入れられた後の子どもの状況

ゆりかごに預け入れられた後の子どもの状況については、第1期では対象となる51例について平成21年9月末日現在の状況で報告されている。今回は平成19年5月10日から平成23年9月30日までの間に預け入れがなされた81例について、平成23年9月末日現在における預け入れ状況を検証した。

81件のうち、身元が判明した事例は平成23年9月30日現在67件で、判明した割合は82.7%、身元が不明の事例は14件で割合は17.3%となっている。これは第1期における身元判明74.5%、身元不明25.5%の割合と比べ、判明率が8ポイント上がっている。

以下、身元判明及び身元不明の事例別に養育状況についてみていく。

【図2-17】



#### (1) 身元が判明した事例

##### ア 判明事例における養育状況

身元が判明した事例においては、親の居住地の児童相談所にケース移管され、ケース移管を受けた親の居住地の児童相談所は、通常の要保護児童の場合の取扱いと同様に、社会調査などを行い、子どもの家庭環境を把握したうえで、子どもにとって最善の利益を第一に考え、援助をおこなっている。

身元がわかった67件のうち、乳児院で養育されているものが24件(35.8%) (判明事例67件における割合、以下同じ)、里親のもとで養育されているものが17件(25.4%)、家庭に引取られたものが13件(19.4%)となっている。また特別養子縁組が成立した事例が9件(13.4%)である。

また、里親のもとで養育されている事例のうち、特別養子縁組に向けて手続きを進めているものが複数ある。



## イ 養育状況の推移

身元判明事例について第1期と第2期の比較をすると次のとおりとなる。

【表 2-16】

	子どもの養育の状況	平成21年9月30日現在					平成23年9月30日現在						
		19年度	20年度	21年度	計		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	計	
					件数	構成割合						件数	構成割合
身元判明	乳児院等施設への養育委託	6	16	5	27	71.1	5	5	4	6	4	24	35.8
	里親への養育委託	2	2	0	4	10.5	3	8	2	4	0	17	25.4
	家庭に引き取り、養育	1	3	1	5	13.2	0	5	3	4	1	13	19.4
	特別養子縁組の成立	0	1	0	1	2.6	1	4	4	0	0	9	13.4
	その他	1	0	0	1	2.6	2	0	1	1	0	4	6.0
	計	10	22	6	38	100.0	11	22	14	15	5	67	100.0

まず施設で養育されているものについては全体で 71.1%から 35.8%と半減している。これを年度ごとに見ていくと、19年度に預け入れられた子ども 6人が5人、同じく20年度が16人から5人、21年度が5人から4人となっており、これに県検証報告後の22年度、23年度に預け入れられた子どもの10人が加わっている。これは早い年度における預け入れ児のうち施設で養育委託されていた子どもの多くが里親委託へ移行したためである。

したがって、里親委託されている子どもの割合は全体で 10.5%から 25.4%と15ポイント増加している。これを年度ごとに見ていくと、19年度に預け入れられた子どもは2人から3人、同じく20年度は2人から8人、21年度は0人から2人に増えており、これに22年度の4人が加わっている。

次に、家庭引き取りの状況についても同様に、5人から13人に増加している。年度別では20年度に預け入れの子どもが3人から5人、同じく21年度は1人が3人、これに22年度の4人、23年度の1人が加わっている。なお、19年度が1人から0人に減少しているが、これは、家庭引き取り後に特別養子縁組あっせん団体に預けられたことによるものである。

家庭引き取りにつながった主な経緯は、次のとおりである。

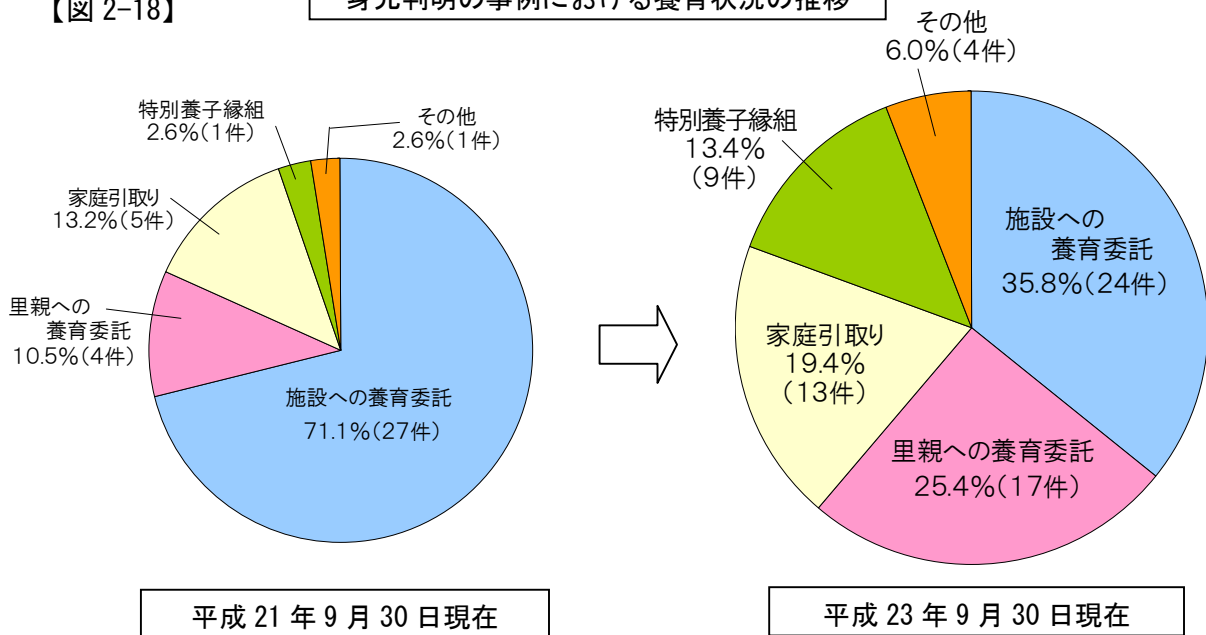
- ・ 預けられた後、管轄の児童相談所に移管されたが、慈恵病院のスタッフの支援と児童相談所の熱心な指導で、祖父母の協力を得て、家庭引取りとなった。
- ・ 既婚の母親であったが、夫婦喧嘩で自宅を飛び出し、職がみつからずに混乱してゆりかごに預け入れたが、父親の協力で夫婦も元の鞘にもどり、母方祖母の協力も得て家庭引取りになった。
- ・ 不倫の出産で母親が育児を放棄したために、父親が預け入れた。その後、母親も面会に訪れ、父親の経済的援助を得ることで、母親が引取った。
- ・ 未婚、未成年の出産で、誰にも相談ができずに二人で困ってゆりかごに預け入れた事例、及び、20代の未婚で誰にも相談ができず、ゆりかごに預け入れた事例については、ともに母方や父方の祖母の協力を得て、家庭引取りになった。

次に、特別養子縁組の成立した子どもは1人から9人へと大きく増加している。これを年度ごとにみていくと、19年度に預け入れられた子ども1人、同じく20年度1人であったものが4人、21年度が4人となっている。

なお、その他については、特別養子縁組あっせん団体に預けられた事例のほか、家庭引き取り後、家族が看護を続けており定期的な病院受診を行い自宅で養育していたが2年後に病気により看護の甲斐なく自宅で亡くなっている事例があった。また、家庭引き取り後に特別養子縁組希望の養親に預けられている事例が含まれている。

【図 2-18】

身元判明の事例における養育状況の推移



(2) 身元不明の事例

ア 不明事例における養育状況の推移

身元が判明していない14例について、乳児院で養育されているものが3件で全14件における割合は21.4%、里親のもとで養育されているものが9件で64.3%となっている。また特別養子縁組が成立した事例が2件で14.3%となっている。

イ 養育状況の推移

身元が判明していない事例について、第1期と第2期の比較は次のとおりとなる。

【表 2-17】

	子どもの養育の状況	平成21年9月30日現在					平成23年9月30日現在						
		19年度	20年度	21年度	計		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	計	
					件数	構成割合						件数	構成割合
身元不明	乳児院等施設への養育委託	1	1	3	5	38.5	0	1	0	1	1	3	21.4
	里親への養育委託	6	2	0	8	61.5	5	1	1	2	0	9	64.3
	特別養子縁組の成立	0	0	0	0	0.0	1	1	0	0	0	2	14.3
	計	7	3	3	13	100.0	6	3	1	3	1	14	100.0

まず、施設で養育されているものについては、38.5%であったものが、21.4%と約17ポイント減少している。

これを年度ごとにみていくと、19年度に預け入れられた子どもが1人から0人、同じく20年度が1人で増減なし、21年度は3人から0人となっており、これに22年度、23年度に預けられた子どもの2人が加わっている。このことから早い年度に預け入れた子どもについて施設での養育委託から里親での養育へ移行しており、施設での割合が減少していることがわかる。

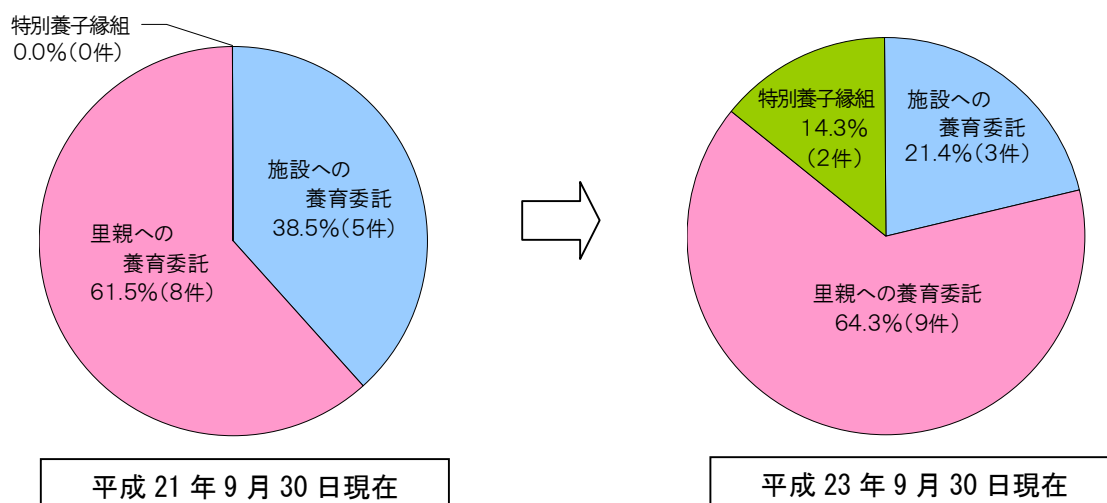
次に、里親委託されているものについて、19年度に預けられた子どもでは6人が5人に、同じく20年度では2人が1人に減少している一方で、21年度と22年度あわせて3人が里親委託されている。この減少した2人については里親委託を経てそれぞれ特別養子縁組に移行している。なお、里親のもとで養育されている事例のうち、特別養子縁組に向けて手続きを進めているものが複数ある。

次に特別養子縁組については、第1期においてみられなかった特別養子縁組の成立した事例が19年度1人と20年度1人の計2人（14.3%）となっている。

平成21年9月30日と平成23年9月30日での養育状況についてグラフに示すと次のとおりとなる。

【図 2-19】

身元不明の事例における養育状況の推移



なお、各年度における預け入れ後の変化については次の図のとおりである。

【図2-20】

